

# 保健医療サービスに対する仮想評価法 (Contingent Valuation Method)

## 本邦研究のレビューと海外研究の概要

ヤスナガ 康永	ヒデオ 秀生*	イデ 井出	ヒロオ 博生*
イマムラ 今村	トモアキ 知明*	オオエ 大江	カズヒコ 和彦*

保健医療サービスの便益を測定する手段として、仮想評価法 (contingent valuation method, CVM) が知られる。仮想評価法は、アンケート調査を用いて、仮想的な市場を描いたシナリオの下でのサービスに対する被験者の支払意思額 (Willingness to Pay, WTP) を推定する手法である。われわれは本稿において、保健医療サービスの仮想評価法に関するこれまでの海外研究を概説し、本邦研究のレビューを行った。MEDLINE, EconLit, 医学中央雑誌を用いて検索された本邦研究14編 (英文5編, 和文9編) について、アンケート調査の方法、仮想的シナリオに含むべき情報、支払意思額の質問形式、仮想評価法に特異的なバイアスの問題、妥当性・信頼性、事後評価・事前評価、利他的支払意思、非健康価値、以上の8項目を検証した。本邦研究では、(1)仮想的シナリオに含むべき情報が十分でない研究がある、(2)バイアスの存在や対処法を実証した研究はない、(3)妥当性は一部検証されているが、信頼性のテストは実施されていない、(4)すべて事後の利用者基盤評価である、(5)利他的支払意思や非健康価値は十分に検討されていない、ことが明らかとなった。仮想評価法は、その様々な利点を勘案すれば、他の経済評価手法を補完しうる有力な分析ツールになりうると考えられる。本邦において、仮想評価研究はまだその端緒が開かれたばかりである。多くの保健医療従事者に仮想評価法が活用され、本邦の医療経済研究がさらに活性化されることが期待される。

**Key words** : 仮想評価法, 支払意思額

---

\* 東京大学医学部附属病院企画情報運営部  
連絡先: 〒113-8655 東京都文京区本郷7-3-1  
東京大学医学部附属病院企画情報運営部  
康永秀生